IV　教育と社会
(Education and Society)

1．教育と言語
(Education and Language)

国内で多言語を使用している現状は，ケニアが，国レベル，地方レベルの教育政策を立てる上で障害要因となっている。[Ominde 68] や [Witeley 74] は，四つのグループ(バンツー，ナイロ＝ハミット，クッシート，ナイロート）と 39 のアフリカ人エスニック・グループを記録している（「ケニア政府リポート」1981)。その各々が母語をもっている。

そのほかに事実上の「国民語」であるスワヒリ語がある。その起源については説が分かれるが，どのグループのものとも特定できない，しかし完全に外来語でもない，というスワヒリ語のあいまい性が，国民語として採用されるにはかえって好都合であった。植民地時代からスワヒリ語は政府から，また他の母語を話すアフリカ人からも認められた「生活語」として広く使われてきた。

このほかに公用語である英語がある。英語は英語による植民地統治をとおしてケニアに入り，教育を受けた層から順次普及した。最初は小学校から外国語として教えられたが，間もなく小学校高学年から大学までの教育用語として使用されるようになった。これにより英語をマスターすることは，社会の中で「認められる」ための前提となった。現在，都市部の小学校では 1 年生から英語による教育が行なわれている。おおまかな推計によると，全人口の 60％ほどがスワヒリ語を理解し，話し，40％ほどが英語を理解し，話すことができるといわれる。[Kimani wa Njoroge 85]

●学校教育における言語

独立前の学校教育はミショナリ・スクールが中心であった。1909 年，United Missionary Conference (on language policy in education) in Kenya で合意をみたことは，(1)小学校 3 年からスワヒリ語を教える，(2)小学校 4，5 年生から英語で教育を開始すべきである，の 2 点であったが，母語で教えるのがいちばん教育効果が上がるとの反対意見もあった。

母語を用いる場合の問題点として，次の 2 点があげられた。

(1)　教材 —— どのグループにも適した良い教材を選び，それぞれのグループの母語に翻訳しなければならないが，翻訳者がいない。また費用がかかりすぎる。

(2)　母語で教育する教員を養成するための教員がいない（ミショナリーは適任ではない)。

[Phelps Stokes Commission 1925] の報告は，教育の中でどの母語を公用語として教えるべきかと自問している。4 語（スワヒリ，キクユ，ルオ，ルヒア）を最初の言語として認め，他のグループの者はスワヒリ語を使うのはどうかと提案しているが，少数グループの母語が軽視された形となっている。

1955 年の East Africa Royal Commission は，言語についてはあいまいな態度にとどまったが，教育はなるべく早い時期に英語で行なうことが望ましいとしている。その理由は，東アフリカの人々が英語を習いたがっているからというものであった。スワヒリ語については，他の母語で教育が始まる場合に，スワヒリ語を第二言語として加えることは時間とエネルギーのムダであるとしている。

このためスワヒリ語の普及は減速したものの，商業の場そしてイスラムとキリスト教を普及するための手段としても広まっていく。

エスニック・グループ諸語やスワヒリ語を，書く言語として使用するに当たっては，ミショナリの力が大きかった。[Kimani wa Njoroge 85]

母語による教育のためには，その前提としてStandardization（綴りの標準化）の問題があった。

キクユ語の場合は，1933年，標準綴り法が提案されたが，印刷する前に激しい異論が出て，35年に取り下げられた。46年にようやくキクユ語グループの間で合意ができた。

ルヒア語の場合は方言が多く，さらに複雑，困難であった。1942年，Luhya Orthography Committeeは標準綴り法の提案を行なったが，反発が多くてまとまらなかった。[Kimani wa Njoroge 85]

こうした問題を抱えつつも1950年代まではアフリカ人校，アジア人校ではそれぞれの母語による教育が主体であった。英語は一教科として教えられていた。しかし50年代に入ると教育における母語路線はしだいに消えていく。

大きな理由は現実問題として実施上の困難が多すぎた。次の問題は，国の開発を進める場合に選ぶべき言語は英語かあるいは現地語のうちのどれか一つかということになる。

現地語の中ではスワヒリ語が筆頭候補であった。その理由は，(1)バンツー系に属し，広く東アフリカのバンツー系の人々の意志疎通の手段として便利，(2)ナイロート系グループの人々にも広く理解されている，(3)早くも1930年に標準綴り法が合意されている，(4)文献も豊富であるというものである。

●英語による教育

英語は植民地政府にとって現実的理由から最適であった。1950年，アジア系人学校で最初に導入されるとすぐ，アフリカ人学校にも導入してほしいとの要望が強まった。英語による教育への障害としては，アフリカ人，アジア系人向けの，英語で書かれた教材と教員が不足していたことであるが，これは乗り越えられぬ問題ではなかった。結局，英語が公用語として採用されたが，これは主としてよりニュートラルだという消極的な理由と，すべての学科にわたって教材が豊富であったためである。[Kimani wa Njoroge 85]

一方，植民地当局は，英語力の低下を懸念し，1950年代の終り頃，アフリカ人にも小学校1年から英語による教育を開始することに決定，この方針は独立後も新政府によって引き継がれた。[Masara 87]

独立後，新政府を組織した後，ケニヤッタ大統領は国会でスワヒリ語で演説し，スワヒリ語使用の重要性を強調したが，コイナンゲ大統領府大臣は，現実問題として法をスワヒリ語に翻訳するのは困難であることを指摘した。

英語による教育は独立前から試験的にスタートしたが，独立後すぐナイロビのパイロット地区のいくつかの学校で採用された。それはEnglish Medium Approachと呼ばれたが，さらに教授法の革新と相まって，New Primary Approach（歴史の章参照）と呼び名を変え，小学校1年生から新しい教科書を使用して行なわれた。

[Chagan 62]によると，英語媒体方式（English-Medium Approach）は革命的であった。ただし「外国語」による教育は現実感に欠け，状況認識を薄れさせがちであった。したがって，英語を，教育用語として教育の中で用いると同時に，日常的な状況を設定し，小グループをつくり遊びと学習の両面から英語による意志疎通をはかり，より早い成果をあげることができると考えた。

1964年のOmindeリポートは，植民地時代より受け継いだ教育の遺産について検討した。大多数の子供は小学校1年生からの英語による教育を望んでいるが，これは植民地時代に養われた態度の影響であり，ホワイト・カラー指向へつながっている。一方，各要職を急速にアフリカナイズしなければならないが，そこでの使用言語は英語である，したがって英語の教育は重視しなければならない，としている。母語の保持のためには，例えば小学校の1～3年生に母語によるお話しの時間を提案している。しかし各母語による教育は現実的問題点が多いこと，セクショナリズムに連がり，国家統一の意識を養う意味でも不適であるとした。

［Castle 66］によると，初等教育修了資格試験を受けたアフリカ人生徒が英語の試験で75%が落第した。その理由は，母語で教育を受けているため，英語は2～3年間学習するのみで，英語を丸暗記するか，頭の中で母語から翻訳している子供がほとんどであったためとしている。

全学校のカリキュラムと教科書を作るKIEは，1967年，母語13言語による教科書（リーダー）を作成するよう依頼を受け，主要科目についてTujifunze Kusoma Kikwetu（TKK）シリーズを作った。しかし，これは教室の現場ではあまり使用されなかった。エスニック・グループの混じり合ったクラスが増えたためである。

1969年，政府はスワヒリ語を国語（National Language）とする法律を成立させた。現在，地方のすみずみまで普及させようとの努力がなされている。

●英語による教育の見直し

［O'Connor 74］によると，1973年当時1年生の60%が英語で学んでいた。中でもセントラル州に多かった。テスト制度は，英語での教育を受けるものに有利にできていた。

英語による教育の開始から10年経った頃，その方式の欠陥がさまざまな形で顕在化して，1976年に見直しが行なわれるにいたる。

例えば，英語の力は，話すことは自由になったにもかかわらず，文章が書けない，文法も理解できていない。その上，共通語であるべきスワヒリ語と母語が完全に無視された。そこにルーツ喪失の危険さえあった。また母語を用いたほうが自然で早く学習が身につくという意見もあった。

その結果，農村部では小学校1年生から3年生までは母語による教育を行ない，英語は一教科として学ぶこと，高学年は英語を媒体とすること，英語の需要の多い都市部では以前のように英語を媒体とする教育を行なうこと，に決定した。多くのエスニック・グループが混じり合っている都市では，母語を一つにしぼりきれなかった。

ケニアの3言語政策は野心的な試みであるが，一方ではハンディが大きすぎて，どの言語も満足でないという批判もあることは事実である。［Wanyoike 78］は，子供たちの間のそうした言語困難症的現象を調査した。最近では，ナイロビなどの大都市で，多くの言語の錯綜した生活の中からスワヒリ語と英語の混合語Hengが生まれ，若者の間に広まっていることを憂いた新聞記事もみられる。

＜文献目録　Bibliography＞

言　語
(Language)

Abdulaziz, and T. P. Gorman.
Language in education. Journal of Language Association of East Africa 1 (2) 1970 51–55. 1405

Bashir, Abud.
Vernacular teaching in Kenya primary schools. ［Dar es Salaam, 1908］8p. (Paper read at the Eastern African Regional Conference on Language and Linguistics, Univ. College, Dar es Salam, 1968) 1406

Bracey, N, W.
An investigation into the feasibility of using a non-verbal intelligence test administered in the Kimeru vernacular with children in standards, 4, 5, 6 and 7 in primary schools in Meru District, Kenya. London, Royal College of Preceptors, 1975. 186p. 1407

Castle, E. B.
Growing up in East Africa. London, Oxford U. P. 1966. 1408

Chege, J. P. K.

Possible communication barriers and their effects on school performance.
(Ph. D. Thesis : Kenyatta Univ. College 1985) 86p. 1409

Chimerah, R. M.
The role of the classroom teacher in Swahili language instructional radio broadcasts.
(M. A. Thesis : Univ. of Nairobi 1982) 115p. 1410

Cotterell, F. P.
Language and media supports for non-formal adult basic education. Nairobi, Afrolit, 1977. 124p. 1411

Crampton, Diana.
Language Policy in Kenya. Rassegna Italiana di Linguistica Applicata 18 (3) 1986. 9-12 : 109-122. 1412

Fawcett, R. P.
The medium of education in the lower primary school in Africa with special reference to Kenya. in Language in education in East Africa, ed. by T. P. Gorman. Nairobi, Oxford U. P. 1970 : 51-69. 1413

Fjellman, Janet.
The myth of primitive mentality : a study of sematic acquisition and modes of categorization in Akamba children of South Central Kenya.
(Ph. D. Thesis : Stanford Univ. 1971) 1414

Gachukia, E.
The teaching of vernacular language in Kenya primary schools. in Language in education in Eastern Africa, ed. by T. P. Gorman. Nairobi, Oxford U. P. 1970 : 18-24. 1415

Gorman, Thomas Patrick.
Bilingualism in the educational system of Kenya. Comparative Education, 4(3) 1968 : 213-221. 1416

Gorman, Thomas Patrick.
The development of language policy in Kenya, with particular reference to the education system. in Language in Kenya, ed. by W. H. Whiteley. Nairobi, Oxford U. P. 1974 : 397-454. 1417

Gorman, Thomas Patrick ed.
Language in education in Eastern Africa : Papers from the first Eastern Africa Conference on languages and linguistics. Nairobi, Oxford U. P. , 1970. 206p. 1418

Gorman, Thomas Patrick.
A survey of educational language policy ; and an enquiry into patterns of language use and levels of language attainment among secondary school entrants in Kenya.
(Ph. D. Thesis : Univ. of Nairobi, 1971) 562p. 1419

Gorman, Thomas Patrick.
Teaching of language at secondary level ; significant problems. in Language in Kenya, ed. by W. H. Whiteley. Nairobi, Oxford U. P. 1974 : 481-545. 1420

Hemphill, R. J.
Language use and language teaching in the

primary schools of Kenya. in Language in Kenya, ed. by W. H. Whiteley. Nairobia, Oxford U. P. 1974 : 455–480. 1421

Heine, B.
Research on the distribution of kiswahili in Western Kenya. Journal of Language Association of East Africa 1 (1) 1970 : 80–85. 1422

Itebete, P. A. N.
The standardization of the orthography of Luluyia. Journal of Language Association of East Africa 1 (1) 1970 : 39–47. 1423

Kimani wa 'Njoroge
Multilinguaism and some of its implication for language policy and practises in Kenya. in Language in education in Africa (Seminar proceedings) Centre of African Studies, Univ. of Edinburgh 1985 : 327–354. 1424

Lary, Peter H.
Language policy and national education in East Africa.
(M. A. Thesis : Colombia Univ. 1968 69) 1425

Mason, M. P.
Linguistic aspects of failure to reach expected levels of reading achievement in a group of Nairobi primary school children.
(Ph. D. Thesis : Manchester Univ. 1974–1975) 1426

Mbiyu, J. J. N.
A survey of the effectiveness of the primary teachers colleges in preparation of Kiswahili teachers in Kenya. Nairobi, 1983. 1427

Mbuvi, Dennis M.
Beyond Policy and language choice : An analysis of texts in four instructional contexts in East Africa. Special studies in comparative education, No. 18. Buffalo, State School of New York, 1987. 1428

Mulira, E. M. K.
The vernacular in African education. Nairobi, Longman, 1951. 1429

Mwanzi, Helen O. A.
Language policy. Nairobi, BER, Kenyatta Univ. 1986 54p. 1430

Mwanzi, Helen O. A.
Language policy in primary schools. in The quality of primary education in Kenya, ed. by C. Wanjala and S. Wandibba. Nairobi, BER, Kenyatta Univ. College, 1983. 130–144. 1431

Njeru-Muciri, Samuel G.
A survey of standard one mother tongue reading instruction practices in some selected primary schools in Embu district.
(M. A. Thesis : Univ. of Nairobi 1984) 176p. 1432

O'Chagan, C.
English medium teaching in Kenya. Overseas education (34) 1962. 10 : 99–106. 1433

Owuor, Donald.
The difficulties experienced by Luo and Swahili children in learning English.
(M. A. Thesis : McGill Univ. 1963) 1434

Perren, George.
English in Kenya schools. Kenya Education Journal (1) 1959. 11 : 15–18. 1435

Perren, George.
Training and research in English teaching. Overseas Education 1959. 7 : 50–57, 1959.10 : 125–133, 1960. 1 : 159–165. 1436

Seddon , G. M. and G. Waweru
The transferability of scientific concepts between different languages for Kenyan students. British Journal of Educational Psycology 57 (2) 1987. 6 : 244–248. 1437

Wanyoike, E. N.
A teacher training reading methodology manual in Kiswahili for lower primary classes in Kenya.
(Ph. D. Thesis : Univ. of Nairobi 1982) 82p. 1438

Wanyoike, Mary Salome.
A diagnostic study of Kenyan children with specific language/reading disability : dyslexia.
(Ph. D. Thesis : Univ. of Nairobi. 1978) 284p. 1439

Whiteley, W. H. , ed.
Language in Kenya. Nairobi, Oxford U. P. 1974. 1440

Whiteley, W. H.
Swahili, the rise of a national language. Menthuen & Co. 1969. 1441

Zwana, Japhet M.
The administrative role in the introduction of African languages as primary media of instruction in African schools : an exploratory study.
(Ph. D. Thesis : State Univ. of New York at Buffalo 1977) 181p. 1442

2．教育と女性
(Education and Women)

［UN Decade for Women Conference 85］は，1985年7月，ナイロビで開かれた国際婦人年会議にケニアが提出した公式文書の一部である。これは国連婦人の10年（1976～85）の期間の統計を用いてケニア女性の置かれた状況を示そうとする初めての試みであり，国の開発のすべての面における女性の関わりが読みとれる。

Kenya Education Review 誌は2巻2号（1975年12月）で「女性の教育」特集を行なった。それによると，現在の近代的な教育システムの中にさまざまな形で現われている女性のハンディキャップは植民地時代に発生している。そこでは一般に男は賃労働あるいはヨーロッパ人の補助労働に従事するために西洋の知識やシステムを学ばなければならなかった。ヨーロッパ式の学校教育を受けることが身を立てる手段として必要とされた。女性の場合，伝統的な女性の役割分担からはヨーロッパ式教育の必要性は生まれてこない。女性が教育を受ける機会をもつか否かは，家庭における女性の地位で決まったが，それは両親の選択であり夫の同意にかかっていた。

したがって，日本などに見られたように「女性に学問はいらない」という社会通念があったわけではなく，ヨーロッパ式教育の導入の時点で，植民地統

治側の労働需要と供給側のニーズがたまたま一致したのが「学校教育」であり，女性はその場面ではワキ役であったと考えられる。ケニアの教育全体がそうであるように，女性と教育の関係も職業との関連が強く，女性の社会進出とともに教育を受ける機会も均等化の方向に向かっているといえよう。

女の役割分担は時代とともに変化する。[Smok 77]は，ケニアの女性に開かれた教育の機会について，さらに女性に期待されている三つの役割（家庭運営，仕事，出産）において，それぞれの段階の教育がどんな影響を及ぼすかを検討している。

以下に，ケニア女性が教育の場面で負うさまざまなハンディを，それぞれの教育段階でみていきたい。

●初等教育

独立当時の1963年，小学生中女子の比率は約3分の1であったが，79年には約47%と接近した。しかし中学校への進学率，初等教育修了資格試験（KCPE）の成績，初等教育最終学年7年（1985年まで）あるいは8年（1986年以降）におけるリピート率（最終学年の場合は，落第よりも積極的な意味で学内浪人に近い。KCPEを良い成績で合格し，良い中学を目ざすための措置である場合が多い）において男子より劣っている。

地域による男女就学率の差は，一般に，経済的に発展した地域ほど少なくなっている。女子就学率の良い地域はセントラル州やナイロビ地区である。また悪い州としてノース・イースタン州，コースト州などASAL地域が目立っている。

[UNESCO 76]報告によると，経済的に大きな変革が起きないかぎり，女子の低就学率は当分続くだろうという。小学校1年から6年まではほぼ同じレベルで続くが，小学校7年で大きく落ちる。その理由は，女子が退学するわけではなく，男子のリピートが激増するためである。これは女子がリピートできない（余裕がない）ことによる。リピートは一種のぜいたくである。CPEの成績でも女子は男子より低い。小学校1年に入学した女子のうち，中学校に入るのは女子の約4分の1である（男子は3分の1）

[Somerset 76]は，CPEにおける女子の不振について社会的環境の力が大きいとして，CPEへの女子の参加率が高まれば試験の成績も向上する，つまり女子教育への評価が高い環境に置かれれば，成績のハンディが克服されることを示唆している。

ユニセフは，地域／都市別に男女就学率の変遷とその原因を調査し[UNICEF／Central B. of Statistics 84]，経済的に可能な状態にある家庭では男子と女子は同じような扱いを受けていることを裏づけた。それは，(1)男子と同様に女子も教育を受けることによって所得能力が高まることへの認識が深まった，(2)結婚の際にも教育がメリットとなっている，(3)将来，両親の面倒をみたり経済的に支えたりするのはむしろ娘であるという認識が広がっている，ことなどによる。1974年に始まった授業料の漸進的無料化による就学率の急激な伸びに関しては，男女の差はみられないとしている。

●中等教育

中等教育レベルでは女子は独立以来，引き続き不利な立場に置かれているといえよう。

[Rep. of Kenya：Women in Kenya 78]によると，1968年当時，男子校143校に対し女子校は61校であった（共学校は28校）。そして男女のギャップは74年まで拡大を続けた。74年，政府は政府系中学校を凍結し，ハランベー・スクール援助へ力を向ける。この時点で政府系男子校は女子校の約3倍であった。女子の増加分の大半はハランベー・スクールによっていた。

[Krystall 80]によると，79年の調査で男女の所属中学校をタイプ別に分けてみると下表のようになっており，条件の悪い非補助のハランベー・スクールに女子が偏っていることかわかる。

	男子の場合	女子の場合
政府系校	45%	31%
政府補助校	20%	22%
非補助校	35%	47%

［UNICEF 84］のリポートも，女子のハランベー校生の率が高いことを指摘して，女子は質の悪い教育を高いコストで受けている，また教育の質や設備の劣った学校の場合，理科や数学の科目に弱い傾向があるし，伝統的な考え方も災いして，女子が理数科系に進学する道は閉ざされているという。

［Rep. of Kenya：Women in Kenya 78］も，中学上級のAレベル（5～6年）の段階で大部分の女子は文化系を専攻することを余儀なくされ，大学進学への道も就職も狭められる結果，生涯賃金において大きな差が生まれるとしている。

［UNICEF 84］は，さらに女子の中退者が多い理由として，(1)経済的困窮，(2)妊娠をあげている。妊娠については正確なデータはないが，相当数に上がるとみられていることから，こうした生徒を従来のように学校から追放しないで，学業を継続する道を残す手配をすること，「家庭計画」教育，性教育を施すことを提案している。

［Kilongo 81］の Mwingi 郡の調査によると，娘をもつ家長のうち90%は，娘が学校に通うことによって妊娠し，結果的に教育が無駄になることを恐れて，娘を教育することに消極的であった。

地域別に女性の学歴を比較調査した［Davidson 85］は，西と中央ケニアの代表としてブンゴマ県 Chwele 郡の大バルヒア・グループと，Kirinyaga 県 Mutira 郡のキクユ・グループをとり上げている。

●技能教育

機能教育を受けたものは，アカデミックな教育を受けただけのものよりも現金収入を得る機会が多い。しかし，女子が技能教育を受ける機会は男子と比べて狭くなっている。例えば，中学校の高学年になると男子は理数系が人気があるのに比べ，女子では文科系，あるいは家庭科系で家庭の仕事へ追い込まれる傾向が強い。テクニカル・スクールは一部を除いて女子を制限している。ヴィレッジ・ポリテクニックでは男がよい現金収入につながりやすい大工，石工，鋳物工などの技術を学んでいるが，女子は洋裁や編物などが多い。

UNICEF のリポートは，伝統的に女の仕事とされている技能の習得のための習いごと以外に女が技能訓練を受けることは歓迎されず，男のほうが中学以降のトレーニングでは選択の余地が多い，政府が実施しているトレーニング・プログラムで農業，水開発，技術関係のものは女子を除外している，という。

Kenya Journal of Education の1巻2号は，技能訓練の特集で，1982年時点の男女の比率について，ヴィレッジ・ポリテクニックは男子3643名対女子1991名，ナショナル・ユース・サービスは女子が10～20%，技術／産業中学校は男子8407名対女子771名と報告している。

●高等教育

大学の女子学生の比率は，ナイロビ大学の学部学生の場合，1960年代約20%，70年代でいったん下がるが，81年で23%と回復，ケニヤッタ大学で44%（1981年），小学校教員養成校で40%となっている。［UNICEF　84］

専攻分野では，理数科系進学における女子のハンディキャップを調査した［Eshwani 83］は，中等教育の段階で疎外要因が現われることを跡づけるために中学校教師や理数科専攻の女子学生に聞取り調査を行なっている。

●ウーマンズ・グループ

ケニアは女性の草の根自助組織活動が盛んであるが，［Likimani 85］は，女性グループの指導者たちの活動を通じて女性相互の自己教育活動の発展をたどっている。

また Elgeyo Marakwet 県のマラクェト・バレーで，キリスト教ミショナリと社会サービス省が共同で女性グループを組織し，小規模農業経営，養鶏，ユニホーム作り，手工芸等の研修を行ないつつ経営の成果をあげているようすを［Dietz 87］が報告して

いる。

●識字教育

75歳以上の大人の識字率をとると，女性は男性の約半分である。それだけ女性のほうが男性より文字による情報から隔離されていたといえよう。

政府の教育調査委員会［Kamunge委88］によると，女性の識字率は地域によってバラつきがあり，セントラル州は全体的に高く（カジアド／ナロック地区を除く），キアンブ，ムランガ，ニャンダルア，ニエリ，ラム，タナリバーなどは10～20%台となっている。地域別の男女格差も同様にバラつきがあり，小さい県でニエリ，カジアド／ナロック，ナンディ，西ポコト／エルゲヨ・マラクェト，クワレなど，大きい県でケリチョ，シアヤ・ブシアなどとなっているが，その原因については判明しないとしている。

成人のための識字教育の受講者は80年代に入って年々減少しているが，女性の比率が圧倒的に高いことには変りなく約8割を占めている（文化・社会サービス省）。

＜文献目録　Bibliography＞

教育と女性
(Education and Women)

Bager, Jennifer, and Abigail Krystall.
The women's group programme ; a strategy for education and rural development. Kenya Education Review 2 (2) Dec. 1975 : 53–61. 1443

Barnes, Carolyn.
Women in Kenya's rural economy. Kenya Education Review 2 (2) Dec. 1975 : 35–46. 1444

Chege, Amos N.
Education for Maasai girls : socio-economic background.
(M. A. Thesis : Univ. of Nairobi 1983) 214p. 1445

Clark, Noreen M.
Education for development and the rural woman, Vol. 1 : a review of theory and principles with emphasis on Kenya and the Philippines. New York, World Education Inc. 1979. 1446

Conference of Women Educationists to Consider the Beecher Report in Relation to the Education of African Girls, Nairobi, 1950.
[Report] Nairobi, Govt. Printer, 1950. 13p.
(Chairman : M. Janisch) 1447

Conference on assembling and collecting data on the participation of women in Kenyan society : women in rural development (group discussion paper) Kenya Education Review 2 (2) Dec. 1975 : 88–104. 1148

Davison, Jean.
Achievements and constraints among rural Kenyan women : a case study. Journal of Eastern African Research and Development (Nairobi) (15) 1985 : 268–279. 1449

Egsmose Ragna, K.
Aspirations of Kenyan school girls in regard to education training and choice of occupation and career. Nairobi, BER, Kenyatta Univ. 1981. 40p. 1450

The emerging role of women adult education in Kenya. Journal of Negro Education (Wa-

shington) (56) 1987. 3 : 419–470. 1451

Eshiwani, George S.
The education of women in Kenya, 1975–1984. Nairobi, BER, Kenyatta Univ. 1985. 81p. 1452

Eshiwani, George S.
Report of the National Seminar on Women's Access to Higher Education in Kenya, held at Naivasha Sept. 21–23, 1983. 97p. 1453

Eshwani, George S.
Sex differences in the learning of mathematics among Kenya high school students. Kenya Education Review 2 (2) Dec. 1975 : 111–119. 1454

Eshiwani, George S.
Women's access to higher education in Kenya: A study of opportunities and achievement in science and mathematics. Nairobi, BER, Kenyatta Univ. 1985. 120p. 1455

Final report to the government of Kenya on the establishment of a three-year diploma course for women in agriculture and home economics : Egerton College. Rome : FAO, 1976. 50p. (Based on the work of J. Eaton-Evans and K. Hangaard.) 1456

Kaguru, G. K.
An examination of socio-cultural factors hindering higher education and status achievement of the female population in Kenya. Nairobi, BER, Kenyatta Univ. 1986. 1457

Keino, Esther.
Opportunities for females in technical training in Kenya : a focus on the primary, secondary and post-secondary levels of training. Kenya Journal of Education 2 (1) 1985 : 1–20. 1458

Kibet, Moses Kemei I.
Differential mortality in Kenya.
(M. Sc. Thesis : Univ. of Nairobi 1981) 142p. 1459

Kilonzo, E. R.
Obstacles to the acquisition of modern education by women : a case study of Mwingi Division of Kitui District.
(B. A. Honours Dissertation : Univ. of Nairobi 1981) 1460

Kinyanjui, Kabiru.
Educational and formal employment opportunities for women in Kenya ; some preliminary data. Kenya Education Review 2(2) Dec. 1975 : 6–25. 1461

Krystall, Abigail.
The education of women since independence. IDS, Univ. of Nairobi [n. d.] 25p. 1462

Lesthaeghe, R. and others.
Individual and contextual effects of female education on Kenya marital fertility transition. 1983. 19p. 1463

Likimani, Muthoni.
Women of Kenya in the decade of development. Nairobi, Noni's Publ. 1985.

85p. 1464

Maritim, E. K. A.

The dependence of "O" and "A" level results on the sex of examinees. Kenya Journal of Education 2 (1) 1985 : 21–46. 1465

Mulinge, Samuel Manthi.

An evaluate study on the educational programmes offered to Nairobi Women groups by the Women's Bureau of the Social Services Department Ministry of Culture and Social Services
(Dip. in Adult Ed. Thesis : Univ. of Nairobi 1982) 73p. 1466

Mutua, Rosalind W.

Women's education and participation in the changing societies. Kenya Education Review 2 (2) Dec. 1975 : 26–34. 1467

National Seminor on Women's Access to Higher education in Kenya (Naivasha, 1983)

Report. Nairobi, Kenyatta Univ. College, 1983. 97p. 1468

Oludhe-MacGoye, Marjorie.

Growing up at Lina School. Nairobi, East African Publishing House, 1971. 1469

Owino Greg.

Sex-stereotypes in school texts and its effects on women attitudes towards sciences and technology. Nairobi, BER, Kenyatta Univ. 1986. 1470

Pala, Achola, O. ed.

The participation of women in Kenya society: conference held in Nairobi 11–15 Aug. 1975. Nairobi, Kenya Literature Bureau, 1983. 235p. 1471

Pala, Achola O.

A preliminary survey of the avenues for and constraints on women in the development process in Kenya. IDS, Univ. of Nairobi, 1975. 33p. 1472

Pala, Achola O., and Abigail Krystall.

Women and education. Kenya Education Review 2 (2) Dec. 1975 : 1–5. 1473

Programmes for better family living : FAO report on the national workshop for trainers of women's leaders. Kikuyu, Adult Studies Centre 1972. 1474

Rabuku, M. A.

Puonjrwok mar nyako ; a girl's education. Nairobi, Eagle Pr. 1950. 23p. (Por mag jowadu ; Your friends are thinking series)
Luo and English. 1475

Ram, R.

Sex differences in the labour market outcomes of education. in Women's education in the Third World, by G. P. Kelly and C. M. Elliott. Albany, State Univ. of New York Press, 1982. 1476

Regional Conference on Education, Vocational Training and Work Opportunities for Girls and Women in African Countries, Rabat, 1971.

Report. [Bonn ? German Foundation for Developing Countries, 1972 ?] 99p.
(Conference organized jointly by the United Nations Economic Commission for Africa and the German Foundation for Developing Countries.)
1477

Ruigu, G.
Women employment in Kenya. (Paper prepared for the Kenya Government Secretariat, U. N. Decade for Women Conference 1985) 1478

Seminar on Women Development Through Literacy Nyeri, Kenya 1979.
Report 1979. 1479

Smock, Audrey.
Women's education and roles in Kenya. Nairobi, IDS, Univ. of Nairobi, 1977. 99p.
1480

UNICEF/Central Bureau of Statistics/Kenya. Min. of Finance and Planning.
Situation analysis of children and women in Kenya. in The role and situation of women, by Sally Kellock and K. O. Agunda, 1984 : 51-77. 1481

Women and education : report of the Kenya NGO Sub-Committee workshop held in Nairobi 16-18 May, 1985. Nairobi, Kenya NGO Organization Committee Forum 85 of the Conference of the U. N. Decade for Women, [1985] 41p.
1482

Women of Kenya : review and evaluation of progress. Nairobi, Kenya Literature Bureau, 1985.
(Documents produced for U. N. Decade for Women Conference, July 15-26 1985, Nairobi)
1483

3．教育と伝統
(Education and Tradition)

半世紀以上にわたる植民地統治により，社会制度，文化全般にわたり広範囲に英国の影響がみられる。独立時には国の組織全体をアフリカ人が肩代わりして独立国としての体裁を整えるという急務のため，教育制度はカリキュラム，教科書，試験制度等全般にわたり英国方式を継承したまま近代化を急ぐことになった。

一方，独立ケニアのナショナル・アイデンティティを育てるために，各エスニック・グループの伝統や特性を超えたところで共通の価値観を育てる必要があった。したがって教育政策としては，近代化（ヨーロッパ化）と同時に国家意識を育てるという，ともすれば対立しかねない目標をうまく合致させなければならない。そこで「ケニアナイゼーション」とか「ハランベー精神」，「ニャーヨ哲学」といった新しい概念を使って，ヨーロッパ式システムの枠の中でケニア人としての自覚を創造する必要があった。国立校などの生徒の全国募集，KNTCによる教員のローテーション，KIEによる全国統一カリキュラム，KNECによる全国統一試験制度を採用する中で，エスニック・グループのアイデンティティを強調しすぎてはいけないという問題があった。公共の場での“トライバリズム”（部族主義）は要警戒事項となった。

具体的な教育内容は，(1)開発指向型教育，(2)カリキュラムと教科書をケニアの現状に合わせる，例えば，理科・社会は教科書に英国の風土，子供，風俗習慣がでてくるのではなく，ケニアの生活がとりあげられなければならない，(3)スワヒリ語の重視，となっている。

［Hyamu 80］は，英国式のリベラル・エデュケーションは開発指向型の教育ではなく，いわば教育のための教育であり，ケニアの現状に合っているとはいえない。マンパワーの要請に応じて適材適所が実現するような制度を築き，精神は自助，相互扶助を重んじる。ケニヤッタは，ヨーロッパ人の理想は個性を育てることであるが，アフリカ社会の理想は社会の他のメンバーに対する正しい人間関係であり，行動である，といった［Kenyatta 53］。こうした国の政策に対してアフリカ人の一般庶民は，一方で子供の将来のためにアカデミックな教育をできるかぎり長く続けさせたいと願いつつ，自分たちのグループの良き伝統が欧米化によって薄められ亡ぼされることをおそれた。例えば母語の教育についても積極論，消極論の両論がみられる。

［Sifuna 80］は，アフリカ的伝統教育の特質として，(1)共同体教育，(2)環境教育，(3)個人の社会化教育，(4)機能主義教育，などをあげている。

現代の学校教育の中での伝統教育は，(1)精神面，(2)文化面，(3)技術面にみることができる。国の哲学“ハランベー精神”“ニャーヨ哲学”はケニアの伝統的な相互扶助や祖先尊重の精神を新しく作り直したという趣きで教育の場でもしばしば鼓舞される。

「ハランベー精神」は共同体意識とセルフ・ヘルプ精神を組み合わせたようなもので，ケニアの自助は単独で行なう個人主義とは対照的にグループまたは仲間で行なう，いわば集団活動に積極的に関わっていくことを意味し，独立間もない1965年［Sessional Paper No. 10］が提唱した。小グループから大は国家までさまざまなグループ活動に採用されている。教育の場では，(1)ハランベー・スクールの建設，(2)学費や施設費の積極的分担，(3)募金活動への参加，(4)学校行事，建設作業への労働奉仕など，具体的な行動に参加することが求められる。また“ニャーヨ哲学”のニャーヨは足跡や車の轍を意味し，先人のたどった道を引き継いで前進する精神，さらに言葉で表現すると“平和・愛・統一”となる。

［Kamunge 委 88］は，ニャーヨ哲学は民主的なアフリカ社会主義の道徳的基盤となる精神であり，利己主義，高慢，ハレンチは反社会的でアフリカの伝統精神に反すると述べている。これを国のモットーとしてとり入れたモイ大統領は，ニャーヨ哲学はアフリカ伝統精神を結晶させた実用的哲学であり，愛を他の大家族へ，クランへ，部族へ，と分かち合う精神であるという。教育の場においてこの二つの哲学を植えつけることは「国の統一」にとって非常に重要なこととされている。

文化の面では，アフリカの芸術や美術工芸の遺産を引き継ぐため，カリキュラムの中に歌，音楽，ダンス，絵画，彫刻，工芸などの科目を設け，伝統的なテクニックを学習する。

技術では，外国からの高度技術とは別に土着の技術，またそれを開発した中間技術を学び工夫することが奨励されている。8－4－4制の下では従来のアカデミックな教育路線をある程度軌道修正して，伝統的価値観と技術を身につけさせるために，特に小学校のカリキュラム編成に工夫をし，地域社会の名人を教師として招き直接指導を受けるなどの計画もある。

植民地時代のミショナリ教育と伝統文化との関係を論じたものに［Sifuna 80］がある。全般的にいえばミショナリの活動はアフリカの土着文化に破壊的な影響を及ぼした。彼らはアフリカ文化を形成している本質を変えようと試みた。特に迷信，割礼，ポリガミー，諸儀式を敵視した。そのような中にあって，両大戦間期に，学校教育にアフリカの土着文化を取り入れる努力が払われた。1929年に開校したJeanes Schoolは，25年のPhelps-Stokes調査団の勧告にそって，アフリカ的カリキュラムとアフリカの伝統的価値である部族生活の価値観を取り入れた教育を実践しようとした。本書では，その具体的な活動が紹介されている。

これらはむしろ新しい伝統づくりの努力とでも呼べるものだが，これに対して昔ながらの伝統教育は，いいかえれば各エスニック・グループの伝統であり，

もっぱら学校を離れた伝統社会の中で行なわれてきた。一定の似通ったパターンがみられるとはいえ，伝統的教育は各部族の枠の中で行なわれてきた。

ケニア最大のエスニック・グループであるキクユの伝統的教育について述べたものとしてよく知られているものに[Kenyatta 53]がある。それによると，キクユにとっては生まれてから死ぬまで家庭と故郷が学校であり，教えられているという意識なしに人々は自然に学んでいる。まず何よりも学ぶべきことは，すべての行ないが家，クラン，エイジ・グループ，部族（キクユ）の繁栄という枠組みの中で考えてなされなければならない，人間関係の学習が最優先である（ヨーロッパ式の具体的，個別的な学習と比較して）ということである。

教育と文化は一体である。ヨーロッパ人がアフリカの言語・文化を理解せずにヨーロッパ文化を押しつけようとするヨーロッパ方式の教育には反対である。アフリカ式教育では生活の中に一貫して教育がとりこまれているのであって，学校という隔離された場所を必要とせず，教科書も使わない。イメージと儀式が教科書に代わる。農業や牧畜業，技術は自然に仕事の中で経験から学ぶ。またエイジ・グループ同士とのつき合いをとおして，体の敏捷さを身につける。[Kenyatta 53]

この段階では学校制度に疑問を呈していたケニヤッタも，独立後の教育政策では積極的に近代的教育制度をとり入れ，その中にケニア的なものをとりこもうと考えるにいたる。

一つの部族の伝統的価値観が受け継がれ育まれていく基盤となる組織がいかに営まれているかを，キクユのグループを通して実証的に研究したのが[Lambert 65]である。キクユ，メル，エンブ地方における，さまざまな成人儀式前の年齢別グループを中心に，年齢集団組織の実態とその役割や世代交代について社会学的に考察している。

[Kimulu 72]は，カンバの伝統的教育について述べている。そこでは教育は見たり，聞いたり，感じたりの繰返しの中で間接的に行なわれるとしている。主な分野として四つあげている。(1)民話や語り継がれるものすべてに関わるもの —— これをとおして言語，歴史，数学，倫理などを学ぶ，(2)成人儀式または通過儀式に関わるもの —— この場合は一定の形式を踏んで行なわれ，“教師”としてその儀式を司る特定の人間が存在する，(3)音楽，(4)手仕事 —— この二つについては特定の教師は存在しない。テストと呼べるものが折に触れて((2)に関しては儀式の時点で)，行なわれる。この伝統的教育の特質(集団主義や助け合い精神）とそれがもつ宇宙的な広がりをどのような形で小学校教育に反映させていくかを考える。

[Akong'a 87]は，Kamba と Tharaka の伝統的教育を扱っている。Kamba の伝統的教育は行動や人格の面での柔軟性を身につけることが目的とされているのに対し，Tharaka は自制心を育むことに重点をおく。

Kamba の場合，子供は社会的には人間ではない非人格的存在であるが，大人との接触によって学び，しだいに人格的存在となる。(1)特に日常生活の場で男の子は祖父と，女の子は祖母と姉たちと密着して暮し，影響を受ける。(2)さらに子供から大人への重要な儀式としてイニシェーションは三つの段階を踏んで行なわれる。その一時期，子供たちは一般の住人から隔離され，さまざまな試練を受ける。時にはその小屋が学校に早変わりすることもある。

Theraka においては，男の子は 0 歳から 14 歳までの間に四つの年齢層グループに分けて各段階の指導が行なわれるが，最も重要なものはイニシェーションの儀式で，定まったコースに従って教えを受ける。

[Soper 85]は，北ケニアの Turkana 県における Turkana の伝統的教育をとりあげる。それは二つの側面から実行される。

(1)言葉による教育の役割が大きく，手段は口コミである。はなし，神話，なぞなぞ(例えば槍，イス，動物，植物，戦いなどが題材となる)，物語(野獣と出会った時，また両親に対する態度，身の処し方を

含んだ少年たちへの教訓)，emut（歌の混じった語り)と呼ばれる伝承，ことわざ，などの形態があり，テーマは究極的には家畜と結びつく（やぎ，羊，牛など)。親から折に触れて聞き，時には子供同士で物語り合う。なぞなぞなどは夜におばあさんから聞かせてもらうことが多い。

(2)「観察」を通して学ぶことも同様に重要である。

［Sifuna 84］は，ASAL(乾燥・半乾燥地帯)である北ケニアの四つのエスニック・グループ Gobra, Rendille, Boran, Samburu の伝統的教育をレポートしている。この4グループは，気候からくる土地利用，生産・生活様式が遊牧中心という点で似ている。この地域では，英国による植民地統治の影響力が及びにくく，主として行政機構の上でしか力を及ぼさなかったため，現在でも植民地時代以前の土着教育が健在である。

教育の基本は共同体の一員としての準備である。遊牧社会に生きる上で，個人主義の対極としての社会主義，競争に対する「協力」が前提となる。もちろん首長制や長老への忠誠が必要である。そしてはっきりした分業体制をわきまえ，それぞれの身分に応じた仕事を手伝いをとおして学ぶ。仕事における男女の分業は，男は例えば井戸掘り，柵作り，大工仕事，道具作り，遠隔地への遊牧などがあり，女はミルクの保存，容器作り，皮革の衣服作り，小屋作り，食事の準備，水汲みなど，子供は家畜の世話，補助的仕事を受け持つ。

最も重要な教育上のイベントはイニシェーション儀式である。子供たちは年齢集団ごとに育てられ，競い合い，割礼儀式を経て成人する。その過程で強いものが選別され，群を率いて良い牧地を開発してゆく戦士（モラン）に育つ。

［Whisson 64］はルオの伝統教育についてレポートする。ルオの伝統では，教育は実用的分野，調和のとれた人間関係，の二つの分野で意味をもち，中でも後者のほうがより重要と考えられている。経済生活においても社会的関係，人間関係が非常に重要という考え方が深く根づいている。しかし現代教育はこの優先順位をくずしつつあり，高い教育を受けた人々が故郷を離れて再び戻ることはないという事態が起きつつある。

実用的教育はインフォーマルに話や実践をとおして行なわれる。女の子は親類の家にナース／メードとして住み込んだり，子供を生み終えた物知りで経験のある女の家(Siwindhe と呼ばれる)で一定期間，寝起きを共にして，結婚生活に，また生活全般に必要な知識を学ぶ。男の子は思春期に入ると家を出て，生家のゲート近くに他の未婚の男子と一緒に住む。そして長老や家長の火の回りに集まって話を聞き，守るべきルール，超自然的力，クラン，外敵について教えられ，襲撃の仕方，家畜の世話の仕方，建築の技術，争いの治め方，魔法，結婚相手にすべからざる女の判別方法，話術，説得術などについて学ぶ。教育を担当するのは，長老が政治，宗教，部族の歴史，きまり，行動規準などについて，中年の男や祖父たちは実用的なこと，男としての役目に関すること，若者は弟たちや後輩にそれを復習させる，などと分担する。

また［Sifuna 85］は，西ケニアにおける伝統的な教育活動を三つの分野に分けて取り上げる。(1)自然環境についての学習 —— 季節，気候，生活・生産・文化と自然との関わり，自然への対処の仕方，(2)経済活動 —— クラフト（つぼ，バスケットなど)，鋳物鍛冶(矢じり，槍，斧，鍬など)，塩造り，木彫(楽器，容器など)，(3)社会生活 —— グループの一員としての自覚，法律，部族のきまり，言葉，表現方法，年長者の尊重，歌，踊り，話など。教育方法はフォーマルとインフォーマルがあり，フォーマルとしては，見習い，伝統的技能訓練方式，またエイジ・グループごとの教育，そして割礼，成人儀式の際はチューターがいて儀式にまつわる理論と実際的な知識を授ける。インフォーマルには，遊びと仕事の中で友人や年長児から自然に習う。遊びはレスリングや木登りなどの運動を伴うもの，なぞなぞや歌などの知識に関するものがある。仕事は親や他の大人の手伝いをとおして日常的に学ぶ。

［Kipkorir 85］は，Elgeyo Marakwet 地方のケイヨ，マラクェット人の，「人間再生産」システムとしての性にまつわるもろもろのきまりの伝授について述べている。伝統的方式では，性にまつわる多様な営みについての教えが，具体的にあけっぴろげに，ふんだんな例を用いて伝えられたが，学校での現代的教育では，この問題は避けて通られている。著者は，例えば近代的人口調節の導入に関して，伝統的な方法は，現代的方法に比べて効率的には落ちるかもしれないが，それがもつ慣れや手軽さ，生活に密着した合理性（男女住み分けの住居制度など）を充分に考慮する必要があると述べている。

＜文献目録　Bibliography＞

教育と伝統
(Education and Tradition)

Adamson, J.
Peoples of Kenya. London, Collins & Harvill Press, 1967. 1484

Akong'a, Joshua.
Education and Stratification systems. Kenya: Socio-cultural profiles ; Kitui District. IAS, Univ. of Nairobi, (1987) : 165–186. 1485

Allan, W.
The African husbandman. Edinburgh, Oliver & Boyd, 1965. 1486

Anderson, John E.
Self-help and independency : the political implications of a continuing tradition in African education in Kenya. African Affairs 70 (278) 1971 : 9–22. 1487

Bogonko, Sorobea N.
Grazing grounds and Gusii indigenous education. Education in Eastern Africa 6 (2) 1976 : 191–206. 1488

Dalton, M.
The El Molo-dying tribe on the shores of lake Rudolph. (East African Annual) Nairobi, 1951. 1489

Education system. in Change and challenge ; a study of the social and economic changes among the Kenya Luo, ed. by Michael Whisson. Nairobi, Christian Council of Kenya. 1964 : 54–61. 1490

Gulliver, P. H.
The Turkana age organization. American Antholopologist (60) 1958. 1491

Hobley, C. N.
The Akamba and other East African tribes. Cambridge, Cambridge Univ. Press, 1910. 1492

Kay, Stafford.
Curriculum innovations and traditional culture : a case history of Kenya. Comparative Education (11) Oct. 1975 : 183–191. 1493

Kenyatta, Jomo.
Facing Mount Kenya. : The tribal life of the Kikuyu. London, Secker and Warburg, 1938. 339p. 1494

Kilonzo, E. R.
Obstacles to the acquisition of modern educa-

tion by women : a case study of Mwingi Division of Kitui District.
(B. A. Honours Dissertation : Univ. of Nairobi 1981) 1495

Kimilu, David Nzivo.
A social study of the Akamba traditional education and its relationship with formal primary schooling.
(M. A. Thesis : Univ. of Nairobi 1975) 263p. 1496

Kipkorir, Benjamin E. and others.
Demographic patterns and social customs (Part II A cultural Overview.) in Socio-cultural profile of Elgeyo Marakwet District, ed. by B. E. Kipkorir and J. W. Ssennyonga. IAS, Univ. of Nairobi, 1985 : 85–93. 1497

Lambert, H. E.
Kikuyu social and political institutions. London, Oxford Univ. Press, 1965 (Reprint of 1956 ed.) 145p. 1498

Lopresto, Edward James.
Kikuyu education in Kenya.
(M. A. Thesis : Univ. of California 1968) 1499

McGlashan, Neil.
Indigenous Kikuyu education.
African Affairs, 63 (250) 1964 : 47–57. 1500

Mahinda, W. G.
A survey of traditional education among members of the Kikuyu tribe (in Gachiaka Sub-location) . Dept. of Education, Univ. College, Nairobi, 1967. 1501

Monyenye, S.
The indigenous education of the Abagusii people.
(M. Ed. Thesis : Univ. of Nairobi 1977) 437p. 1502

Muga, M. N. Nyagaya
Kiiru (Abila) : an institution of learning ; its educational functions among Jo–Luo.
(Ph. D. Thesis : Kenyatta Univ. College 1984) 43p. 1503

Ndeti, K.
Elements of Akamba life. Nairobi, East African Publishing House, 1972. 1504

Njiru, Eliphelet.
Indigenous education as practised by the Ameru with special reference to circumcision ceremonies.
(M. A. Thesis : Univ. of Nairobi. 1981) 398p. 1505

Odaga, Asenath.
Some aspects of the Luo traditional education transmitted through the oral narratives : Sigendini. Nairobi, Institute of African Studies, Univ. of Nairobi, 1979. 33p. 1506

Raymer, J.
Schooling for the sorceror's apprentice : Elgeyo Marakwet district. Overseas Education (24) 1952. 1507

Sifuna, Daniel N.
Adapting some aspects of African culture in schools : a case study of Kenya and Tanzania.

Nairobi, 1976. 18p.
(Historical Association of Kenya : Annual conference papers, 1976) 1508

Sifuna, Daniel N.
Indigenous education in nomadic communities : a survey of the Samburu, Rendille, Gabra and Boran of northern Kenya. Presence Africaine (131) 1984 : 66–88. 1509

Sifuna, Daniel N.
Indigenous education in Western Kenya.
(Report presented at the Western Province Cultural Festival Symposium 8–11 August 1985, Kakamega) 22p. 1510

Sifuna, Daniel N.
A revival of some aspects of African culture in schools. in Short essays on education in Kenya. Nairobi, Kenya Literature Bureau, 1980. 163p. 1511

Soper, R. C.
Education. in Socio-cultural profile of Turkana District, ed. by C. Soper. Nairobi, Institute of African Studies, Univ. of Nairobi/ Min. of Finance and Planning, 1985 : 76–83. 1512

Spencer, P.
Mechanisms of social control among some pastoral tribes of Africa. Oxford, Univ. of Oxford 1957. 1513

Spencer, P.
The Samburu : a study of gerontocracy in a nomadic tribes of Africa. London, Routlege & Kegan Paul, 1963. 1514

Van Gennep, A.
The rites of passage. London, Routridge & Kegan Paul, 1960. 1515

Wilson, J. G.
Preliminary observation on the Oropom people of Karamojang. their ethnic status, culture and postulate relation to the peoples of the late stone age. Uganda Journal (34) 1970. 1516

4．教育と宗教(Education and Religion)

植民地時代，ミショナリの活動を通じてキリスト教が導入された。また，さらに古くからコーストを中心にイスラム教がもたらされた。これらに対抗する形で，アフリカ伝統文化との葛藤のなかからアフリカ独立教会が誕生した。現在，キリスト教は各部族の伝統信仰と複雑に結びついてアフリカ人を中心に最大の宗教となっている。他にはアフリカ人（ソマリが中心），アラブ人のイスラム教，アジア人のヒンドゥ教などが主なものである。

キリスト教に関するデータで信頼性の高いWorld Christian Encyclopediaによると，1980年推計でケニア国民の73%はクリスチャンと自認しているが，実際に教会との何らかの関係を持っているのは人口の約半数とみられる。ほか土着宗教18.9%，ムスリム6%，その他（バハイ，ヒンドゥ等）2.1%，と推計している。

アフリカ人のグループ別にキリスト教信者をみると，ルヒアの94%，ルオの89%，キシイの82%，キクユの77%，カンバの61%などと推計されている。

キリスト教は国家的に重要な宗教で，大統領自身クリスチャンである。教会の指導者は政治に対しても発言力をもっており，教育に関する国の諮問委員

会にもメンバーとして加わっている。National Council of Churches of Kenya（NCCK）は，さまざまな社会活動，教育活動を行なっているが，その出版物で，若年失業を社会問題として取りあげたAfter school what？ほかの4部作は有名である［NCCK,66,69,70］。

［Urch 68］によると，キリスト教ミショナリ・スクールは，競争意識をもたらしたマネー・エコノミーの導入とともに，ケニアの伝統社会解体へ一役買った。ボーディング制による家族の離反，また個人主義の導入，文盲の父親に対して学問を身につけた息子たちの意識のズレ，などがそれによってもたらされたという。

学校教育をケニアにもたらしたミショナリの教育活動は長い歴史をもって今日まで続いている。ミショナリ・スクールは一部は政府の管理に移されたが，現在も私立校として残っている。またキリスト教関係NGOによる青少年に対する技術トレーニング，貧困層に対する教育活動が活発に行なわれている。

独立後新政府はカリキュラム改革で「宗教」を3時間組み入れる方針を打ち出した。

教会と国家と教育の関係を論じた［Urch 68］によると，独立当時のカリキュラム改革における「宗教」について独立当時，新政府はキリスト教会との関係をはっきり規定しておく必要に迫られた。新生ケニアのエリートたちはキリスト教的生活環境に慣れ親しんでいたし，政府の指導者たちも，独立当時の混乱期にキリスト教を利用することの利点を感じていた。一方，大衆の間でも，激動の時代，キリスト教信仰に頼ることで救いを見い出そうとする空気が強かった。そして教会も，法に基づいた安定した社会を求めるという点で政府の方針にそっていた。

新しい教育体制8－4－4制のカリキュラムにおいても宗教が取り入れられており，初等教育修了試験であるKCPEでは必修科目となっている。KCPEの宗教は，(1)キリスト教，(2)イスラム教，(3)ヒンズー教の選択制となっている。

(3)を選択するのはアジア系（インド，パキスタン）の生徒がほとんどで，残りは(1)か(2)である。ムスリムの生徒は相当数いるはずであるが，実際に(2)を受験するのは極めて少ない。イスラム教用の良い教科書と資格をもった良い教師が少ないためとみられる。中等教育修了資格試験では宗教は選択科目となっている。

＜文献目録 Bibliography＞

教育と宗教
(Education and Religion)

Awino, E. O.
Church and educational development : a case study of Kamagambo Seventh Day Adventist Mission and Kiranda Catholic Church in South Nyanza. Nairobi, Kenyatta Univ. 1986. 1517

Crippen, David.
New approaches in religious education. Kisumu, Evangel Pr., 1970. 37p. 1518

Dain, D.
Religious education in Kenya today. AREA(4) 1972 : 8–14. 1519

Dain, F. Ronald.
Church and state in education : Kenya. World year-book of education, 1966 : 375–377. 1520

Dain, F. Ronald.
Religious education in revolution. Orientation, Journal of Religious Education in Kenya 1 (2) Oct. 1976 : 10–17. 1521

Eisemon, T. Owen, and Ali Wasi.

Koranic schooling and its transformation in Coastal Kenya. Education Development 7 (2) 1987 : 88–89. 1522

Full, James Peter, and Leslie J. Francis.

The influence of creationism and scientism on attitude towards christianity among Kenyan secondary students. Educational Studies (14) 1988 : 77–96. 1523

Gatambo, J.

The role played by the Salvation Army in Kenya, with special reference to the Salvation Army Officers College, Nairobi, 1950–May 1975. 69p. 1524

Gitahe, M.

The place of religion in African traditional education. Dept. of Education, Univ. College, Nairobi, 1966. 1525

Kinoti, Hannah W.

The era of missionary education in Kenya. Orientation, Journal of Religious Education in Kenya 1 (2) Oct. 1976 : 1–9. 1526

Langley, Myrtle.

A serving people : a textbook on the church in East Africa for the East African Centre of Education. Nairobi, Oxford U.P. 1974. 291p. 1527

Muhoho, George. K.

The church's role in the development of the educational policy in the pluralistic society in Kenya.
(Ph. D. Thesis : Pontificia Univ. Rome, 1970) 257p. 1528

Musiga, L. O.

Training for responsibility : an analysis of National Christian Council of Kenya's involvement in education of workers and the community in Nakuru Town.
(Dip. Ad. Ed. : Univ. of Nairobi 1974) 52p. 1529

Neil, S. C.

Religious education in schools. Kenya Education Journal 7 (2) 1973. 25–29. 1530

Novak, Joseph A.

Group theory and experience in senior high school religion programmes. Eldoret, Gaba Publications, 1977. 454p. 1531

Nuoroge, R. J.

Political, moral and religious education. Nairobi, BER, Kenyatta Univ. College, 1980. 22p. 1532

Orimo, E. H. O.

The contribution of the Church Missionary Society (CMS) to education in Kenya.
(M. A. Thesis : Univ. of Nairobi 1974) 1533

Otieno, Luckio.

Primary teachers college curriculum for Christian religious education in Kenya. Nairobi, ACO [African Curriculum Organisation] Project, 1983. iv, 29. [51] leaves. 1534

Ouko, J.

St. Phillips Bible School Maseno as a school of continuing education Nairobi, 1974. 52p. 1535

Reynolds, David Hamilton.

A follow-up study of selected graduates of a school in Kenya for children of missionaries 1965–1970.

(Ed. D. Thesis : Univ. of Virginia 1972) 162p. 1536

Strayer, Robert William.

The making of mission schools in Kenya : a microcosmic perspection. Comparative Education Review 17 (3) Oct. 1973 : 313–330. 1537

Welch, Eileen.

God speaks to men : a textbook on the old testament syllabus for the East African Certificate of Education. Nairobi, Oxford U. P. 1972. 187p. 1538

Welch, F. G.

Christian education and African culture. Learning for Living 10 (5) May 1971 : 19–21. 1539